

SG レオの始業前点検 必ず安全確認をしてからご使用下さい。

本製品はパイプスペース等狭所専用の作業台です。前後が壁面の狭所以外では使用しないで下さい。

ロック確認

- ・ 設置幅調節ブレスのロックが確実にロックされているか？
- ・ 伸縮脚ストッパーが確実にロックされているか？
- ・ 手掛かり棒のロックが確実にロックされているか？

設置後の確認

- ・ 天板面が水平になっているか？
- ・ 平らな場所においてガタつきがないか？

異常の確認

- ・ 手掛かり棒に曲がり・亀裂はないか？
- ・ 天板に曲がり・亀裂はないか？
- ・ 主脚に曲がり・亀裂はないか？
- ・ 主脚開きとめに曲がり・亀裂はないか？
- ・ 伸縮脚に曲がり・亀裂はないか？

SG エクレス禁止事項

- ・ 二人乗りはしない。
- ・ 爪先立ちはしない。感知ガードに安全帯を掛けない。
- ・ 無理に壁を押したり物を引いたりしない。乗った状態で移動しない。
- ・ 天板の上に台や脚立を載せて使わない。
- ・ 昇降禁止側から昇降しない。
- ・ 背を向けて降りない。踏みさん上で作業をしない。
- ・ 乗り出して作業をしない。

最大使用質量 120kgf(1,180N)

- 体重と積荷の合計重量が、最大使用荷重を超えて使用しないこと。
- 同時に2人以上乗らないこと。

危険

- 設置するときや持ち運ぶときは、配電線に注意すること。
- 感電注意。

警告

- 手を挟まないように注意。

注意

- 塗料、接着剤、モルタル、発泡ウレタン等の付着は、全損請求となりますので、養生をお願いします。

製造元 ジー・オー・ピー株式会社

代表 03-5534-1800

SGレオ 組立方法

通常時

- ①本体を立て、サイドのロックを解除する。
- ②主脚を主脚開きとめが開ききるまで開く。
- ③手掛かり棒を設置する。
- ④組立完了。

設置幅調整時

- ①主脚を設置幅調整ブレスのロックが掛かる位置まで開き、ロックを掛ける。
- ②手掛かり棒を設置する。
- ③設置完了

収納時は逆の手順で行ってください。

脚調節の方法

- ◎脚の伸縮は本体を持ち上げロックレバーを操作するとスムーズに作動します。
- ※ロックが確実にかかって伸縮脚が滑らないことを確認すること。
- ※伸縮脚の角孔に亀裂あるいは変形がある場合には使わないこと。
- ※使用后、伸縮脚を絶対に縮めること。伸縮脚の破損、曲がりの原因になります。

設置幅調整ブレスのロックの確認

フックを金具に掛けてロックをして下さい。

使用上の注意と禁止事項

SGレオの設置場所等

- 単体で使用する。
- 次のような場所には設置しない。
 - ①傾斜している場所。
 - ②天板が水平にならない場所。
 - ③段差や凸凹等により本作業台が安定しない場所。
 - ④不意の移動、沈下等の恐れのある場所。
 - ⑤人や物の出入口やドアの前等、専ら通路として使用される場所。ただし、出入禁止等の表示を行った場合はこの限りではない。
 - ⑥足元や周囲がはっきり見えない暗がり場所。
 - ⑦作業台を高くするための台や箱の上。
 - ⑧作業箇所可能な限り近接したところに設置させる。
 - ⑨前後が壁面の狭所以外。転倒する可能性があります。

SGレオの使用方法

- 天板の積載荷重は、120kg以下とする。
 - 昇降は、天板が水平になっているのを確認した後行う。
 - 昇降は昇降面に対し、前向きで行うこと。
 - 折りたたんで使用するには、設置幅調整ブレスがロックされていることを確認すること。
- ### ▲ 禁止事項
- 同時に2名以上の者が乗らないこと。
 - 片足立ちや爪先立ちをしないこと。
 - 脚の下に物を挟まないこと。
 - 天板の上で脚立・架台はしこ等を使用しないこと。
 - 主脚をたたんだ状態で使用しないこと。
 - 人を乗せたまま移動しないこと。
 - 踏みさん上で作業をしないこと。
 - 天板の端で作業をしないこと。
 - 作業台としての用途以外には使用しないこと。

- 作業中に壁を押ししたり物を引いたりしないこと。
- 感知ガードに乗ったり、腰掛けたりしないこと。
- 狭所以外では使用をしないこと。前後が壁面時のみ使用可能。

▲ 危険

- 折りたたんでの使用時には、確実に設置幅調整ブレスのロックをすること。
- 設置するときや持ち運ぶときは、配電線に注意をすること。
- 感電注意。

▲ 警告

- 天板が水平になるように設置すること。
- 足元や周囲がはっきり見えない暗がりには設置しないこと。

- 持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり乱暴に扱わないこと。
- 使う前には各部に異常がないことを確認すること。
- 変形した作業台を使わないこと。
- 作業台を背にして降りないこと。
- 作業台から身を乗り出して作業しないこと。
- 荷物を持って、昇り降りしないこと。

▲ 注意

- 作業中に上ばかり気をとられて足を踏みはずさないように注意すること。
- 手を挟まないように注意すること。